| 授　業<br>科目名 | 【Ｇ】　経済学Ⅰ | 区　　分<br>その他参照 | 開講年次 | 【Ｇ】1 | 単位数 | 【Ｇ】2 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目区分 | 基本科目：教科及び教科の指導法に関する科目（中社・ー・公民・ー） | | | | | |
| 授業形態 | 対面授業 | | | | | |
| 担当形態 | 単　独 | 【Ｇ】　教員の免許状取得のための　（中社必修・ー・公民必修・ー）科目 | | | | |
| 施行規則に定める科目区分又は事項等 | 教科に関する専門的事項：「社会学、経済学」（中一種免社会）<br>「社会学、経済学（国際経済を含む。）」（高一種免公民） | | | | | |
| サブ<br>タイトル | 問題演習を通じて経済の仕組みを理解する | | 担当者 | 小川　竜明 | | |

| | | |
|---|---|---|
| 授業概要 | 【概要】 | これまで、本科目を履修する学生の多くが教員志望者や公務員志望者であった。そこで、過去に教員採用試験や公務員採用試験で出題された問題を用いながら経済理論を学習していく。過去問を使うことで、暗記が求められるキーワードや理解すべきものが明確になる。<br>次の(1)～(4)を達成するため、予習（各回の「ワークシート」にある問題を解いてくること）を必須とする。<br>(1) 問題を解く作業を通じ、「わかるもの」と「わからないもの」に分けることができる。<br>(2) 授業では、予習の段階で「誤解していたもの」や「わかったつもりでいたもの」、「わからなかったもの」に重きを置いて説明を聞くことができる。<br>(3) 「同じ間違いを繰り返さない」という復習の意味を見出すことができる。<br>(4) 教員採用試験や公務員採用試験の出題方式や出題傾向を知り、対策を立てることができる。<br>「本科目を受講して良かった」と心から思える秘訣は、これらを完遂し、高い学習効果を得ることに尽きる。<br>なお、経済学Ⅰでは、「財政及び貿易や外国為替等の国際経済分野」以外を扱う。 |
| | 【到達目標】 | ・さまざまな経済事象や経済問題について、自分の頭で考え、自分なりの答えを出し、さらにそれを自分の言葉で説明できるようになる。<br>・物事を深く、且つ多面的に捉えられるようになる。<br>・教員採用試験や公務員採用試験の出題方式や出題傾向を把握し、今後の学習計画が立てられるようになる。 |
| 履修条件 | 真摯な姿勢で授業に臨む意志があり、且つ次の(1)、(2)のいずれかに該当する者。<br>(1)教員、国家公務員または地方公務員（警察官、消防官を含む）を志し、採用試験に合格するためならば、いかなる努力も惜しまない者。<br>(2)経済に関心があり、経済について限りなく深く分かろうとする気概を持つ者。 | |

| アクティブラーニングの方法 | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 【 ー 】 | 事前学習型 | 【 ー 】 | 反転授業 | 【 ー 】 | 調査学習 | 【 ー 】 | フィールドワーク |
| | 【 ー 】 | 双方向アンケート | 【 ○ 】 | グループワーク | 【 ○ 】 | 対話・議論型授業 | 【 ー 】 | ロールプレイ |
| | 【 ー 】 | プレゼンテーション | 【 ー 】 | 模擬授業 | 【 ー 】 | PBL | 【 ー 】 | その他 |

| ディプロマ・ポリシーとの関連性 | | |
|---|---|---|
| | DP（ディプロマ・ポリシー）① | ー　（当てはまらない） |
| | DP（ディプロマ・ポリシー）② | ー　（当てはまらない） |
| | DP（ディプロマ・ポリシー）③ | ◎　（よく当てはまる） |
| | DP（ディプロマ・ポリシー）④ | ー　（当てはまらない） |

| | |
|---|---|
| 他科目との関連性 | ①あらかじめ履修を済ませてほしい科目：特になし。<br>②同時に履修することが望ましい科目：経済学Ⅱ<br>③当該科目を履修した後で履修してほしい科目：国際経済論Ⅰ、国際経済論Ⅱ |
| 教科書 | 教科書は使用しない。<br>予習用教材（問題を掲載したワークシート）や授業で使用する資料（問題の解説）は全て担当者が用意し配信する。 |
| 参考書 | ・小峰隆夫『世の中の見方が変わる経済学』東京書房、2023年。<br>・田内学『きみのお金は誰のため』東洋経済新報社、2023年。<br>・戸崎肇『実践経済学―変動期を生きぬくために―』芦書房、1999年。<br>その他、授業内で適宜紹介する。 |
| 評価方法 | 下記の(1)小テスト（配点36）、(2)学習到達度確認テスト（配点64）の結果を総合的に勘案し成績を評価する。<br>(1)小テストは、第3回から第14回の授業開始直後に行う（3点×12回、答案の出来により0点～3点を付与）。<br>・小テストは前回学習した内容の理解度を測るものである。<br>(2)学習到達度確認テストは、授業で学習した内容に沿う形で応用問題を出題する（正解数に応じて得点を付与）。<br>小テスト、学習到達度確認テストともに、配付した資料やノート、スマートフォン等の電子機器類の持込みはすべて「不可」とする。 |
| フィードバック方法 | 小テストは採点後、答案を返却する。小テストを採点し誤答が目立った問題については別途解説を行う。 |
| 評価基準 | ・授業内容について、これをよく理解し、答案等に自分の言葉で適切に表現できた者にはその程度に応じて「S」または「A」を与える。<br>・単元の内容についての理解や表現に、何らかの不適切ないし若干不足する点がある者はその程度に応じて「B」または「C」とする。<br>・単元の内容についての理解自体が不十分な者はその程度に応じて「D」または「E」とする。<br>・学習到達度確認テストに欠席するなど、評価不能の場合は「F」とする。 |

| 授　業<br>科目名 | 【Ｇ】　経済学Ⅰ | 区　　分<br>その他参照 | 開講年次 | 【Ｇ】1 | 単位数 | 【Ｇ】2 |
|---|---|---|---|---|---|---|

| 授業回数 | 授業内容 |
|---|---|
| 1 | オリエンテーション、経済学を学ぶ上での仕込み(1)―経済学に特有の「費用」の考え方を押さえる<br>予習：　シラバスを読み、疑問に思った点などを余白にメモしておく（30分）　復習：　授業の説明を100%理解する（150分） |
| 2 | 経済学を学ぶ上での仕込み(2)―経済主体である「家計」「企業」「政府」の関係を理解する<br>予習：　ワークシート[2]の問題を解く（45分）　復習：　次回の小テストに備える（135分） |
| 3 | GDP(1)―「付加価値」の意味や、「フロー」と「ストック」の違いなどを押さえ、GDPに計上するものと計上しないものに分ける<br>予習：　ワークシート[3]の問題を解く（45分）　復習：　次回の小テストに備える（135分） |
| 4 | GDP(2)―「生産」「分配」「支出」のどの面から見てもGDPの金額が等しくなる「三面等価の原則」を理解する<br>予習：　ワークシート[4]の問題を解く（45分）　復習：　次回の小テストに備える（135分） |
| 5 | GDP(3)―GDP（国内総生産）とGNI（国民総所得）、NNI（国民純所得）、NI（国民所得）の違いを押さえる<br>予習：　ワークシート[5]の問題を解く（45分）　復習：　次回の小テストに備える（135分） |
| 6 | (総)需要と(総)供給―グラフ（需要曲線と供給曲線）を使って「価格」や「物価」が決まる仕組みを理解する<br>予習：　ワークシート[6]の問題を解く（45分）　復習：　次回の小テストに備える（135分） |
| 7 | 物価―GDPデフレーター、消費者物価（指数）、企業物価（指数）の違いを押さえる<br>予習：　ワークシート[7]の問題を解く（45分）　復習：　次回の小テストに備える（135分） |
| 8 | 消費者理論―需要曲線の勾配に関係する「需要の価格弾力性」を理解し、「必需財」と「奢侈財」に分類する<br>予習：　ワークシート[8]の問題を解く（45分）　復習：　次回の小テストに備える（135分） |
| 9 | 生産者理論―「完全競争市場」と「独占市場」「寡占市場」「独占的競争市場」の違いを理解する<br>予習：　ワークシート[9]の問題を解く（45分）　復習：　次回の小テストに備える（135分） |
| 10 | 金融(1)―貨幣が持つ機能を考察し、「直接金融」と「間接金融」の違いを押さえる<br>予習：　ワークシート[10]の問題を解く（45分）　復習：　次回の小テストに備える（135分） |
| 11 | 金融(2)―「信用創造」の仕組みを理解する<br>予習：　ワークシート[11]の問題を解く（45分）　復習：　次回の小テストに備える（135分） |
| 12 | 金融(3)―「マネタリーベース（資金供給量）」と「マネーストック（通貨残高）」の違いを押さえる<br>予習：　ワークシート[12]の問題を解く（45分）　復習：　次回の小テストに備える（135分） |
| 13 | 金融(4)―中央銀行が行う金融政策の仕組みを理解する<br>予習：　ワークシート[13]の問題を解く（45分）　復習：　次回の小テストに備える（135分） |
| 14 | 金融(5)―人々が貨幣を保有する動機を考察する<br>予習：　ワークシート[14]の問題を解く（45分）　復習：　次回の期末試験に備える（135分） |
| 15 | 授業の総括（30分）と学習到達度確認テスト（60分）<br>予習：　これまで学習した内容を振り返る（180分）　復習：　これまで学習した内容を反芻する |
| その他 | ・受講者の理解度等を考慮しながら進めていくので、授業内容は変更する場合がある。<br>・新聞の経済欄に目を通すことを習慣とし、最新の経済動向を追うこと。<br>・真摯に授業を受ける学生の志気を下げるような行為（教室中に響く深い溜め息、大あくび、居眠り、私語、電子機器の使用等）を行った者に対しては退室を命じるなど、厳正に対処する。<br><br>※Gカリ：【選択必履修（ア）】 |